

「第4回公的年金制度及びその周辺知識に関する研修(実践編)」開催の報告

連合会は2月8日～10日の計3日間、東京都(秋葉原)において、「第4回公的年金制度及びその周辺知識に関する研修(実践編)」を開催し、26都道府県より69名が受講した。

本研修は、昨年10月に開催した「理論編」の修了者を対象に、グループワークでの議論や発表、演習を中心とした研修により、「理論編」で学んだ内容についてより実践的な能力を身に付けることを目的として開催されたものである。

なお、本研修については、2019年度においても引き続き開催することとして、検討を進めていく予定である。本号では、本研修のカリキュラムを策定した、社会保険労務士総合研究機構「公的年金制度及びその周辺知識に関する研修制度構築プロジェクト(年金PT)」の原佳奈子プロジェクトリーダーによる研修総括とともに、3日間の研修概要を掲載する。

研修の実施について

社会保険労務士総合研究機構 「公的年金制度及びその周辺知識に関する研修制度構築プロジェクト(年金PT)」

原 佳奈子 プロジェクトリーダー



●研修総括

昨年の理論編に続き、今回の実践編にも全国各地から昨年を上回る大勢の先生方にご参加いただきました。この実践編については、参加型でアウトプット中心の研修です。そのため、グループ形式のディスカッションを通じた意見発表や全員の前での模擬プレゼンなど、できるだけ多くの方に発言していただく時間をとるようにしました。

研修内容については、実際のライフプランをグループごとに作成し見直しポイントを議論していただき、企業年金の事例や経営者と話すために必要な会計知識にも触れていただき、さらには、年金に関す

るテーマを一般の人に伝えるためにはどのような工夫が必要かをグループごとに話し合ってください代表者に実演していただきました。制度内容を説明する際、まずどのような話をどう話したら興味をもって聞いてもらえるのか、自分の知識を相手に確実に伝えるための工夫についてグループごとに議論してもらいました。実践編では、全体を通して、個人向けと企業向けのどちらの場面においても、特に伝えるスキルについてもレベルアップを図ることができるようカリキュラムを組みました。

参加者の皆さんはすぐに交流を深められ、活気にあふれた明るい雰囲気の中で、活発な意見交換・議論展開が行われていましたので、伝えるスキルもレベルアップされ、この実践編もとても充実したものになったと手ごたえを感じております。

●研修参加者の声

参加者の方々からは、「10月の理論編を経て今回はさまざまなアウトプットの機会がありとても勉強になりました。社労士としてどのように関わっていけるのかを、具体的にイメージできました」という声や「自分にはない知識がたくさん習得できました」、「参加型の研修で最初は大丈夫だろうかという不安もありましたが、他の参加者の皆さんとも交流でき、非常に良かったです」といった声をいただきました。さらには、「グループワークはグループで意見をまとめること、発表の仕方、伝え方の勉強にとっても参

考になりました」という感想や「グループ討議は同じグループ内の先生たちの意見を聞く機会になり、もう少し時間等を拡充してほしい」などの感想もいただきました。限られた時間の中での研修ではありましたが、いただいたアンケートをもとに研修内容をさらにブラッシュアップしていきたいと思っております。

●今後について

これからの時代、ますます老後の期間が長くなる中で、「長い老後をどう過ごしたいか」、そしてその

ためには、「老後の所得確保をどのようにしていくか」ということがこれまで以上に重要になっていきます。そのような中、社労士が、企業年金や個人年金、さらには将来設計や資産形成などの領域を含めて、幅広い知識をもち、わかりやすく伝えるスキルを持つことはいっそう重要になると考えます。

2019年度も引き続き実施することを検討しております。その際にはぜひ全国から多くの方にご受講していただきたいと思っております。

研修 1 日目 11:00~18:00

1-1. 社労士業務への活かし方 ～業務拡大と顧客獲得のポイント～ 11:00~12:30

埼玉県社会保険労務士会 望月 厚子 氏



概要 (抜粋)

1. 質問されたことに答えられる社労士になりたい
2. 現在の業務について
3. 世の中の関心はなんだろう？
4. 月ごとの話題をピックアップ
5. 検索ワードで連想
6. ライフプランのアドバイスでは？
7. データを活用してアドバイスに活かす
8. なぜ、住宅ローンのアドバイスが必要なのか？
9. 住宅ローン解決方法の提案例
10. ねんきん定期便をセミナーに活用
11. まとめ

1-2. CF表作成と見直しポイント 13:30~18:00

東京都社会保険労務士会 川端 薫 氏



概要 (抜粋)

1. ライフプランとは
2. ライフプラン作成のメリット
3. ライフプランの作成
4. ライフイベントと必要資金
5. ライフイベント表の作成
6. 事例1 (30代前半)・事例2 (50代後半)
7. 確定給付企業年金・確定拠出型企業年金



研修2日目 10:00~18:30

2-1. 確定拠出年金の導入事例

10:00~11:30

オリンパス企業年金基金 事務長 小山 稔 氏



概要 (抜粋)

1. 会社紹介
2. 退職金制度・DC制度の変遷
3. DC教育の過去の取組み状況
4. 現在の取組み
5. まとめ

2-2. 確定拠出年金導入事例から考える

12:30~13:00

東京都社会保険労務士会 原 佳奈子 氏 (進行)

概要 (抜粋)

1. グループディスカッション
テーマ「DC制度導入事例を聞いて、感想、参考になったこと、ヒントとなったことなどについて、考えてみましょう。」

2-3. 確定拠出年金を利用した
資産運用の考え方と従業員教育

13:10~15:10

日本商工会議所 DCプランナー研修企画委員 吉田 聡 氏



概要 (抜粋)

1. 確定拠出年金を利用した資産形成
 - (1) 老後資金の必要額は？
 - (2) 資産形成の手段
 - (3) 確定拠出年金の特徴
2. 理論編の内容から
 - (1) 分散投資
 - (2) リバランス
 - (3) 損益率
3. キャッシュフローとリターン
 - (1) ファンド収益率
 - (2) 期待リターン
 - (3) 投資信託について

2-4. 経営者と企業経営を語り合う
ための会計知識

15:25~17:55

日本商工会議所 DCプランナー研修企画委員 吉田 聡 氏

概要 (抜粋)

1. 企業会計の基本
2. 会計の文法
3. 決算書の構造とその見方
4. 財務分析の基本
5. グループワーク

研修3日目 10:00~16:00

3-1・2. 公的年金制度とその周辺知識を わかりやすく伝えるために

10:00~16:00

東京都社会保険労務士会 原 佳奈子 氏



概要 (抜粋)

- (1) わかりやすく伝えるための基本事項の確認
- (2) グループごとに議論・グループ代表による実践

アンケート結果の概要

●研修全体の評価 (回答者68名)

非常に良かった	27名	39.7%
良かった	31名	45.6%
普通	3名	4.4%
あまり良くなかった	1名	1.5%
良くなかった	0名	0.0%
無回答	6名	8.8%

●受講者の声

- ◆ワークや発表を行うことにより、受け身でなく自ら考えながら受講することができました。
- ◆キャッシュフロー作成、確定拠出、投資知識、財務分析、セミナー講師としての話し方と3日間大変有意義な研修内容でした。今後の年金相談業務に活かしていきたいと思いました。
- ◆いろいろな先生方との出会いや、仕事内容など聞いたりしてとても有意義な研修でした。研修内容も帰ってから復習勉強してお客様のためにつなげていけたらと思います。

【参考】社労士総研では、連合会ホームページ内に各年度の研究プロジェクトや『月刊社労士』に掲載した過去の記事を掲載しています。

①連合会トップページ→②連合会・社労士会について



(URL)

<https://www.shakaihokenroumushi.jp/organization/tabid/279/Default.aspx>



▼③社会保険労務士総合研究機構

社会保険労務士 総合研究機構 (社労士総研)

◎社会保険労務士総合研究機構(社労士総研)とは

社労士総研は、人事・労務管理や労働社会保険関連法令に特化したシンクタンクです。専門シンクタンクとしての特徴を活かし、社労士制度、社労士業務に関する内外の事情、情報について総合的な調査、研究、政策の提言を行い、企業の健全な発達や労働者等の福祉を向上させることを目的としています。

総合的な調査・研究

政策提言
広まらぬ

社労士制度
の充実・発展

事業の健全な発達
労働者等の福祉の向上

所長挨拶
社会保険労務士総合研究機構所長のあいさつです。

研究プロジェクト
研究プロジェクトの紹介と、プロジェクトの研究成果を報告します。

総研レポート
月刊社労士に掲載した過去の記事を紹介します。



「第4回公的年金制度及びその周辺知識に関する研修(実践編)」を受講して

千葉県 林 秀隆

3日間にわたり行われた実践編に参加できたことは、開業3年で未だ軸足の定まっていない私にとって本当に有意義なものとなりました。全国各地から参加された社労士仲間とのグループワークや懇親会を通じて、私自身の勉強不足や社労士としての姿勢の甘さを改めて実感させられました。

実践編に興味深かったことは2つあります。まず1つ目は「キャッシュフロー表作成と見直しポイント」です。在職時から引き続き開業後の現在も退職予定者との相談業務を行っております。セカンドライフの設計において、キャッシュフロー表で時系列的に収支金額を示すことにより、今後の働き方などの選択に役立つと確信できました。この研修で学んだ知識及び雇用保険、年金、社会保険の知識を持つ社労士こそが、この表を作成するのに適任であり、今後のビジネスに取り入れたいと考えています。

2つ目として、「経営者と企業経営を語り合うための会計知識」です。2時間30分に及ぶ講義は、新鮮な気持ちで受講できました。在職時は物件費予算や人件費予算の管理業務もしていた関係で、少しは会計知識があるつもりでしたが、体系的に教わることでいかに断片的な知識しかなかったかを思い知らされました。

人生100年時代と言われる昨今、40~50代から、また万が一病気になる際の対処法(労働法関連、社会保険制度、家計面など)など、今後のライフプランを考えることで将来に対する不安を払拭できるのではないのでしょうか。そのサポート役として、この研修を受講した社労士の存在は大きくなると思います。また、この研修で学んだ知識はさまざまな方面でも活用できそうです。私にとっても、あるNPO法人会員としてがん患者の就労支援の第一歩を踏み出したところで、この知識を最大限活用していきたいと思っています。



「第4回公的年金制度及びその周辺知識に関する研修(実践編)」を受講して

鹿児島県 阿部 文枝

私がこの研修を受講しようと思ったきっかけは、公的年金制度をより詳しく学びたいという思いからでした。

私の場合、実務では年金業務に携わる機会が少なかったため、今後の業務の広がりを期待して受講しました。

研修は理論編と実践編に分かれており、先に行われた理論編では、確定拠出年金制度やライフプランについて、財務の知識を交えながら幅広く学ぶことができました。

後半行われた実践編では、グループワークにより、理論編で学んだことをどのように実践に落とし込むかのディスカッションが中心で、研修を通じて親しくなった先生方と和やかな雰囲気の中で行われました。

本研修は、多方面でご活躍の一流の講師陣により、企業型確定拠出年金の導入好事例、公的年金にプラスαとしての投資運用、ライフプランの提案方法に加え、

この研修で学んだことを講師として伝える場合の心得など、理論と実務の両面について智見を広めることができました。これは、私の今後の職域の拡大に大きな期待と可能性を与えてくれるものでした。

さて、日々の業務では、お客様に年金見込み額の照会を依頼されることがあります。その際、依頼者は「これだけですか?」と異口同音に尋ねるなど、期待と見込み額とのギャップに戸惑うことが多いようです。

そのような実態を目の当たりにして思うことは、もっと早い段階で老後の資産形成のための知識や機会を得るべきであるということです。そこで、私が今回学んだ公的年金制度に加え、ライフプラン設計や投資、確定拠出年金等の知識をより多くの人に発信することができるならば、私の社労士としての社会的使命に大きく寄与するのではないかと考えます。

最後になりましたが、ご指導いただきました講師の先生方、この紙面をお借りし重ねて御礼申し上げます。

2019年度春期 リバティアカデミー (社会人講座) 開講のご案内

お申し込み・お問い合わせ

明治大学リバティアカデミー

平日 10:30 ~ 19:00

土曜 10:30 ~ 15:30 (日祝休業)

TEL 03-3296-4423

FAX 03-3296-4542

Mail academy@mics.meiji.ac.jp

URL https://academy.meiji.jp

〒101-8301

東京都千代田区神田駿河台 1-1

明治大学駿河台校舎

アカデミーコモン 11 階



講座コード
19110025

ビジネス社会保険労務士総合研究機構後援講座

少子高齢社会時代の人事労務管理

「現場」のケーススタディを通して

講座趣旨

少子高齢社会に突入し、新しい産業と新しい多様な労働者（女性、外国人、高齢者、障がい者）が注目され期待されるようになってきました。こうした新しい傾向の下での人事労務管理は、効率性や経済性という視点だけではなく、社会と人権という視点が不可欠です。この春学期の講座はこのような新分野の企業経営と人事労務管理に焦点をあてます。

保育園と障害者施設での人事労務管理のあり方、高齢者の「働き方」と「働かせ方」、障がい者雇用をめぐる問題、そして非正規雇用と女性雇用の問題など、これまであまり取りあげる機会がなかった分野の第一線で活躍されておられる方々をお迎えして、会社経営と人事労務の「現場」を解説していただきます。これらを通して、「働き方改革」と少子高齢社会時代の人事労務のあり方をご一緒に考えましょう。

講座概要

コーディネータ	黒田 兼一 明治大学経営学部教授
曜日	木曜日
時間	19:00~21:00
定員	30人
回数	全7回
受講料	21,000円(一般)
教材	オリジナルレジュメ

回	講義月日	内容	担当講師
1	5/16 (木)	ダイバーシティ・マネジメントと「働き方改革」 いま求められているのは、多様な人材が意欲をもって働きがいを感じるような「働かせ方」です。それは効率性と経済性一辺倒ではない「働かせ方」でなければなりません。	黒田 兼一
2	5/23 (木)	保育業界を取り巻く状況と保育園労務管理の留意点 待機児童問題と並行して課題となっている保育士不足問題に対し、保育園の運営上の仕組みや課題に触れながら、具体的な解決策について解説します。	菊地 加奈子
3	5/30 (木)	障がい者雇用とダイバーシティ 教育・福祉と連動した「障がい者雇用」の変遷を歴史から紐解き、未来の経営戦略を考えます。	高橋 陽子
4	6/6 (木)	株高齢社で高齢者が“きょうよう”と“きょういく”を推進 人手不足と高齢化が進展する日本で、高齢者が現役社員とともにいきいきと働き、関係者から感謝されている現状と、意義・課題についてお話しします。	緒形 憲
5	6/13 (木)	実践！介護事業所の人事労務課題とその解決策 介護職員処遇改善加算に象徴される複雑な人事労務課題の解決事例を具体的に解説します。	三島 幹雄

6	6/20 (木)	現場に見る「女性活躍」の価値とその進め方 企業の現場で「女性活躍推進」を担う立場から、その可能性と推進のポイントを伝えます。	平田 未緒
7	6/27 (木)	グローバル化で日本企業はどう変わるのか？ グローバル化で日本企業は何を求められ、どのように変わっていくのか？日本企業のこれまでとこれからを、人・組織・経営の視点から考えていきます。	田村 豊

コーディネータ・講師紹介

**黒田 兼一**

明治大学経営学部教授

明治大学大学院経営学研究科修了。専門は人事労務管理論。自動車産業を中心に、戦後日本企業の人事労務管理を研究。1992年から1年間イギリスに、2002年から2年間アメリカに滞在し、現地日系企業の人事労務管理と労使関係を調査。現在は日本の人事労務管理の「これまで、いま、これから」に焦点をあてた研究に取り組んでいる。最近の著書に『戦後日本の人事労務管理』（ミネルヴァ書房）、『フレキシブル人事の失敗』（旬報社）、『人間らしい「働き方」・「働かせ方」』（ミネルヴァ書房）など。

**菊地 加奈子**

特定社会保険労務士

(株)ワークイノベーション代表取締役

早稲田大学商学部卒業。一般企業の人事労務部門にて勤務した後、2010年、第三子出産時に社会保険労務士事務所を開業。自ら保育園を運営し、従業員に対して柔軟で働きやすい環境づくりを実践し、企業への両立支援を広く行っている。東京都女性活躍推進人材育成事業研修講師、神奈川県ワーク・ライフ・バランスアドバイザー、厚生労働省中央育児プランナー。

**高橋 陽子**

特定社会保険労務士

ダンウェイ(株)代表取締役社長

数社の企業総務・人事を務めた後、息子の障害をきっかけに、2010年より社会保険労務士事務所を開業。障害者を取り巻く大きな社会的課題解決のため、2011年ダンウェイ(株)を設立。障害のある子どもから大人の就労支援まで切れ目ない支援を実施し、独自の評価制度を構築して実績を出す。さらにインテル(株)と協働し、「ICT治具」を開発。中小企業支援と同時に障害者の新たな職域拡大を目指す。2016年度全国商工会議所女性会連合会「女性起業家大賞」受賞。

**緒形 憲**

(株)高齢社 代表取締役社長

群馬大学工学部卒業後、東京ガス(株)に入社。主に法人営業に携わる(経済産業省対応、群馬支社長)。栃木ガス(株)代表取締役社長、(株)ユメニティ社長を歴任し、2015年1月(株)高齢社入社。2016年6月より現職。人は皆、元気な間はいつまでも社会の役に立ちたいと考えており、社会にも高齢労働者の熟練した即戦力を求めるニーズがあることから、「人は宝」という考えのもと、高齢者の就労支援を行っている。

**三島 幹雄**

特定社会保険労務士

サードブレイス社会保険労務士法人

獨協大学外国語学部卒業。大手訪問介護企業の人事責任者を経て、2007年、29歳で社会保険労務士事務所を開業。介護企業での経験をベースに介護事業者に対し実践的なアドバイスを提供している。介護職員処遇改善加算を算定するために必要なコンテンツ(制度設計、規程、研修管理、能力評価等のツール)を書籍とCDにパッケージ化し販売するなど、独自のサービスを展開し好評を得ている。

**平田 未緒**

(株)働きかた研究所代表取締役

求人広告企業アイテム「人と仕事研究所」にて、女性やパート・アルバイトなど「制約社員」の雇用管理(働かせかた)、および働く本人の「働きかた」について、数多くの企業と働く個人を取材する。同所所長を経て2013年に退社し、現職。17年にわたる取材で学んだ「理想の会社」つまり、企業側と働く側双方が、互いに思い合い、信頼し合い、両者が共に同じ方向(経営理念)を向いて仕事をする「相思相愛」な組織創りのためのマネジメントを提案し、企業への導入を支援している。厚労省等公的委員会の委員経験、講演も多数。

**田村 豊**

愛知東邦大学経営学部教授

明治大学大学院経営学研究科兼任講師

明治大学大学院経営学研究科修了。博士(経営学)。専門は人事労務管理論、生産マネジメント論。スウェーデン企業の経営戦略と労使関係の相互関係について日本と比較し、日本企業の組織力の強さについて研究を進めている。著書に『ボルボ生産システムの発展と転換』(多賀出版)、『中小企業の経営力とは何だ』(中部経済新聞社)など。

学術研究団体等の大会・研究会開催のお知らせ

●日本労務学会 第49回全国大会

日時：2019年6月28日（金）～6月30日（日）

会場：慶應義塾大学 三田キャンパス

※費用・申込方法・テーマ等に関しては、日本労務学会のホームページをご確認ください。

詳細が決まり次第、順次ご案内して参ります。

（ホームページ <http://www.ibi-japan.co.jp/jshrm/index.html>）

●労務理論学会 第29回全国大会

日時：2019年6月7日（金）～6月9日（日）

会場：札幌学院大学

※費用・申込方法・テーマ等に関しては、労務理論学会のホームページをご確認ください。

（ホームページ <http://jalmonline.org/>）

●日本社会保障法学会 第74回春季大会

日時：2019年5月25日（土）・26日（日）

会場：愛媛大学 城北地区

費用：1,000円（各日）

申込方法等：大会当日「傍聴受付」で受付をしてください。報告者のレジュメ等と一緒に傍聴用のプレートをお渡しいたします。

※テーマ等に関しては、日本社会保障法学会のホームページをご確認ください。

（ホームページ <http://www.jassl.jp/>）

●社会政策学会 第138回春季大会

日時：2019年5月18日（土）・19日（日）

会場：高知県立大学 永国寺キャンパス

※費用・申込方法・テーマ等に関しては、社会政策学会のホームページをご確認ください。

（ホームページ <http://jasps.org>）